

教育学部 乳幼児発達学科

1 カリキュラム・ポリシー

教育学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下に明示する。
* 通信教育課程は別に明示する。

全人教育および12の教育信条を教育課程の編成の根本に据えつつ、教育職員免許法施行規則第六条の区分、児童福祉法施行規則および指定保育士養成施設指定基準を踏まえて科目を開設し、基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めていくことができるように科目を配列している。

教育学部が課程認定を受けている教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格のうち、原則として1つまたは2つの免許・資格取得が可能である。そのために、2年次より学科別、あるいは専攻別に、学生各自の進路・志望に従って教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格取得に必要な科目を履修し、所定の単位認定を受けることで免許状・資格を取得する。

同時に、多様なキャリアを模索することのできる社会人としての資質・能力を高める機会、社会の急激な変化に対応することのできる人間として普遍的に求められる知識・技能、そして教養を偏ることなく学ぶ機会、そして、既存の知識体系に固執せず、常に新しい知識を対話的な深い学びを通して獲得し、知的探究心を高める機会となる科目構成を提供する。

また、卒業後に専門性のさらなる深化の一助となる大学院進学を念頭に置いた科目も併せて提供する。

[1年次]

- 全学共通の初年次教育であるユニバーシティ・スタンダード科目、玉川教育・FYE科目、情報リテラシー科目に加えて、基礎的な言語操作力（特に外国語の知識・学力）を育成するためのELF科目を修得する。
- 教育・保育の基礎段階となる「教育学概論」および「**保育者論**」を必修科目として修得する。

[1年次後半から2年次]

- 教育・保育の理論的基礎となる科目群から、必修選択科目として3科目以上を修得する。
- 教育学部が定める階級の英語・国語・数学各分野の検定・資格を2年次末までに取得していることを3年次以降の科目履修の基本とする。
- 教育インターンシップや学校・福祉ボランティアの機会を重視し、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

[3年次、4年次]

- 各自の興味・関心の高い分野に関して専門的・学術的に学修・研究を行う「現代教育研究Ⅰ」および「現代教育研究Ⅱ」、「卒業課題研究Ⅰ」および「卒業課題研究Ⅱ」を必修科目として修得する。
- 教育インターンシップや学校・福祉ボランティアに加えて、教育実習や保育実習では、現場に行く機会を重視し、子どもとの関わりや活動から、教員・保育士としての専門性を深める。
- 教育実習では、現場で子どもと関わる機会を重視し、学級活動や課外活動を観察し、課題解決的な授業を実践することを通して教員としての専門性を深める。

[学修成果の評価]

- 各科目の評価基準はルーブリックとしてシラバスに示す。卒業研究の評価は学部で定めた共通の評価基準によって行う。

乳幼児発達学科

乳幼児発達学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- 教育・保育を学修する上で基盤となる科目並びに教職に関する基礎科目を修得する。
- 現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目を修得する。
- 幼稚園の教員、保育士の養成を目指し、1年次から4年次にかけて段階的に教育インターンシップや教育・保育実習に取り組み、実践的な学びと理論的な学びを交差させて履修することで、学修内容の相乗効果が促されるよう配列された科目を修得する。
- 教育・保育の歴史や、制度、方法など新たな国の動向や課題を理解し、幼稚園の教員や保育士に必要な教育・保育全般の知識・技能が習得されるように科目を配列し、免許状および資格の取得を目指す。
- 教育・保育に対する全般的な知識・技能の修得を基盤とし、さらに、幼稚園の教員や保育士の専門性となる、人の育ちに関わる職種、子育て支援、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育などの分野での社会貢献を促す援助・支援のあり方に関する科目を修得する。

2 卒業要件

乳幼児発達学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

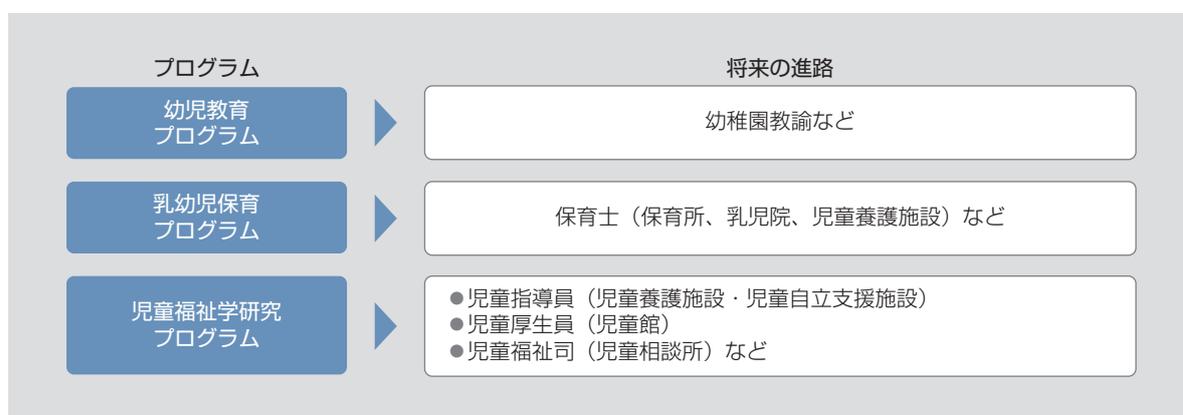
- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」
「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
- (5) 教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
〈必修科目〉 自然科学科目群：「情報科学入門」（2単位）
教職関連科目群：「体育」（1単位）
〈必修選択科目〉 人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群：「名著講読（人文科学）」
「名著講読（社会科学）」「名著講読（自然科学）」より2科目（2単位）
言語表現科目群：「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」
「ELF401」「ELF402」より1科目（4単位）
- (6) 学科科目について次の必修科目および必修選択科目を修得していること
100番台科目より：
〈必修科目〉 「教育学概論」「保育者論」（4単位）
〈必修選択科目〉 「教育哲学」「保育の心理学」「教育方法学」「教育社会学」
「子どもと~~家族~~の発達心理学」「~~教育行政学~~」の6科目より3科目（6単位）
200番台科目より：
~~家庭~~ 5
〈必修科目〉 「全人教育実践演習A」「全人教育実践演習B」（4単位）
300番台科目より：
〈必修科目〉 「現代教育研究Ⅰ」「現代教育研究Ⅱ」「~~特別支援教育~~」（6単位）
400番台科目より：
4
〈必修科目〉 「卒業課題研究Ⅰ」「卒業課題研究Ⅱ」（4単位）

3 卒業までの単位配分

科目群	科目分類	必要単位数	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目	7単位	
	教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目	9単位以上	
乳幼児発達学科科目群	必修科目	16	108単位
	必修選択科目	6単位以上	
	自由選択科目	任意（注1）	
累積修得単位		124単位以上	

（注1）選択科目は教育学部科目、ユニバーシティ・スタンダード科目、他学部他学科科目、500番台科目、単位互換科目を含む

4 履修モデル



履修モデル A 幼稚園教諭を目指すモデル

現在、全国各地で数多くの卒業生が現職の幼稚園教諭として活躍しており、各方面から高い評価を得ていることが、このモデルへの強い動機づけとなっています。

このモデルでの学修を通して、幼児教育のプロフェッショナルに求められる専門的知識・技術を修得し、子供の成長・発達、学問の進展、社会のニーズといった諸側面からの確に幼児教育を捉え、幼児教育を通じて社会文化の発展を担える専門職の養成を行います。

【志向するキャリア】

- 主に国公立の幼稚園の教員

履修モデル B 保育所の保育士、乳児院、児童養護施設等の専門職や幼稚園教諭を目指すモデル

乳幼児、就学前の保育や教育にかかわる専門職の育成ニーズは、未だに増加の傾向にあります。

その理由には、就学前の保育や教育の多様化があります。少子化の一方で、女性労働の増加、一人の子供に対する多様な保育および教育のニーズが発生しており、こうしたニーズに応えます。

【志向するキャリア】

- 保育所、その他の児童福祉施設（乳児院・児童養護施設等）の専門職
- 幼稚園、認定こども園、子育て支援施設、大学院進学（乳幼児科学領域）等